

夢を追う卒業生 その10 平成30年10月2日

新潟での大学生活

◇今回は、石竹栄彦さん 新潟大学人文学部(歴史文化学プログラム)のレポートです！

はじめに

関高校の皆さん、こんにちは。私は2015年(平成26年度)卒業生の石竹栄彦です。現在は新潟大学人文学部4年生で日本史(特に近現代史)を専攻しており、今回は私の大学生活についてお話ししたいと思います。

大学進学について

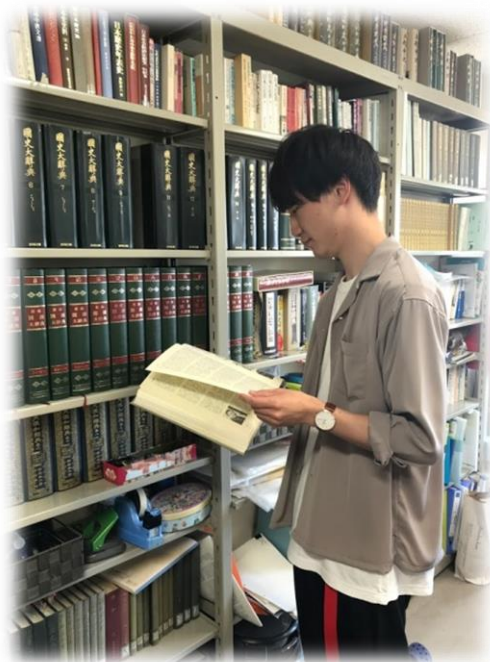
私自身は日本史を勉強したいという思いと、教員になりたいという思いがあったので高1,2年の時は教育学部のある大学を考えていましたが、教科の専門性を考えたとき「歴史をもっと深く突き詰めたい!」という思いから文学部・人文学部を志望するようになりました。そうした中で出会ったのが新潟大学であり、新潟に来ることができて本当に良かったです。自分にとって大学4年間を岐阜県外で過ごすこと、全く知らない新潟という地で生活していることは苦勞もありますが、それ以上に自分自身を成長させることができたと思います。

大学生活について①

大学では日本史の中でも日本近現代史を専攻しています。私が所属している日本近現代史ゼミでは、明治・大正・昭和期の史資料読解・考察に加え、各自の関心に基づいたテーマで研究を行っています。学生の研究テーマは様々で、私は1930年代において民衆がどのように戦時協力していくのかに関心があり、現在は満州事変期の新潟県における飛行機献納運動を通して見えてくる戦時協力の実態を研究しています。

大学で学ぶ歴史は、皆さんがイメージしがちな暗記ばかりしているのではなく、歴史の中で興味のある事象やテーマを取り上げて、それについて文献を読んだり史料を読んだりして、自分なりに歴史を見つめることができます。過去の出来事を対象とするのが歴史学なので、史料が残っていないなどの制限を受け思うように研究が進まないことが多々ありますが、その分史料が見つかった時の感動は大きいです。

大学を選ぶ段階で、自分が何を学びたいかをはっきりさせることは大切ですが、それ以上に自分が何をしたいのか分からない時にどう動けるかはもっと大切だと思います。受け身のままでは、4年という時間だけがただ過ぎていきます。もし大学で何を学ぼうかをはっきりしていなければ、今すぐに大



学の HP を見てください！（どこの大学でもいいので）

進路を考える時、嫌でも自分と向き合わなければいけないのでその時の為にも“自分から”動く・調べる・実際に見てみるということは大切だと思います。

大学生活について②

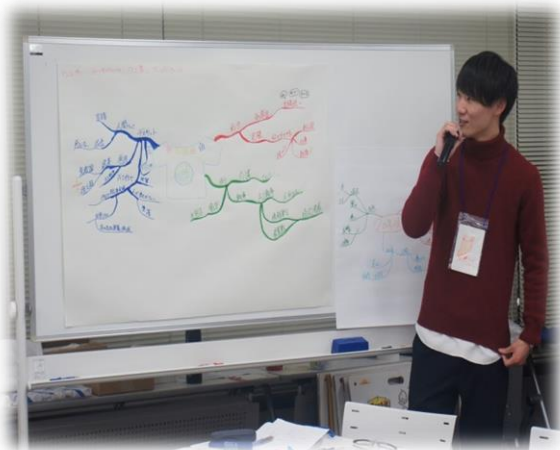
先日の話になりますが、ゼミ旅行で東京に行っていました。写真は東京駅の前でゼミ生で撮ったものです。東京では靖国神社・遊就館、岩崎邸、迎賓館に行きました。靖国神社や岩崎邸は普段行く機会がないので行けて良かったです。個人的に迎賓館の中に入ることができたことが最高でした(笑)。

2枚目の写真は昨年もゼミ旅行のもので、この年は神戸に行きました。

神戸では北野異人館、神戸市立博物館、中華街、六甲山、姫路城を巡りました。ゼミ旅行では近現代史にゆかりのある場所を巡るのはもちろんのこと、行く場所の観光スポットにも行きます。だから、学びがありながらそれ以上に楽しみがあります。

ゼミ生は仲が良いので普段も遊んだり、飲みに行ったりしています。

下の写真は2年生の時、高校生とグループワークをしてマインドマップを作った時のものです。大学生一人に対して高校生3人の計4



人で話し合いをしましたが、とても楽しかったです。

写真はないですが、他にも NPO の活動で新潟県新発田市の小学校でキャリア教育のお手伝いをさせてもらい紙芝居をしたりしたこともあります。大学生になって高校生や小学生と関わるができる貴重な体験でした。

また大学生活で嬉しかったこととして、母校である関高校で教育実習ができたこともあります。教育実習では日本史を担当し授業をさせていただきました。これまでNPOを通じてしか高校生と関わったことがなく、学校現場に入り教員のやりがい・苦勞を2週間だけですが感じる事ができ、充実した実習でした。

お世話になった先生方や担当させてもらったクラスには本当に感謝しています。改めてありがとうございました。



最後に

教育実習の中で関高校は頑張れる人が多いなと思いました。“頑張れる”ということは成果や良い結果が得られる反面、うまくいかないことや思い通りにいかないこともあります。私の考えですが、自分の思い通りに物事が進められることよりも、思い通りにいかなくとも嫌だ！と思った時にどうするかがすごく大切だと思っています。失敗すること、うまくいかないことと向き合うのはとても辛いですが、向き合い続けると失敗も失敗ではなくなり成長の糧になっていくと思います。

関高校の皆さんが成長を続けていくことを期待しています。